

第二編  
第四編

事情

29423  
福岡第一師範學校  
(學校圖書)

分類號	第	號
歷史科學門		
3-12.九州支部		
種別	款	項
叢書	目	次
全	冊ノ内第	冊
分冊	類號	第 23008 號

T 1A1  
27  
F 85

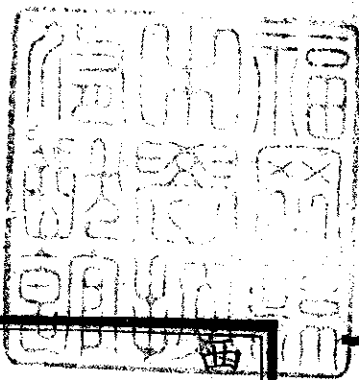
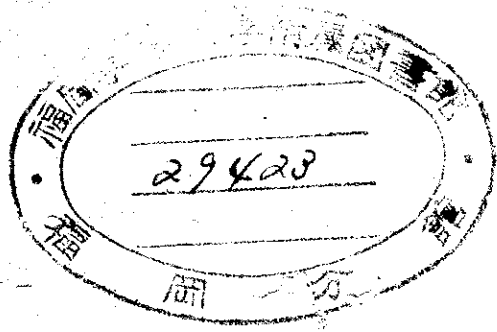
202  
P 85  
(2-1)

福澤諭吉纂輯

西洋事情二編

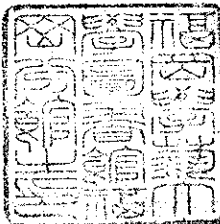
明治三年  
庚午初冬  
慶應義塾出版局

明治六年三月再刻



西洋事情二編卷之一

例言



一 西洋事情初編ノ第一卷ニ於テ先ツ政治、收税法、  
國債等ノ數箇条ヲ示シ以テ本篇ノ備考ニ供シ  
タレト畢竟唯梗概一斑ノ紀事ノミニテ未ダ利  
害得失ノ議論ヲ詳ニセリト謂フベカラズ蓋シ  
我邦ニ於テ始テ英書ヲ翻譯スルヤ其事業固  
リ容易ナラズ加之現今當務ノ要ヲ舉ケ學者  
シテ早ク外國ノ事情ニ通スルヲ得セシメント

スルニ急ナレハ自然疎漏ノ譏ヲ免レス又此譏  
ヲ顧ルニ遑アラス匆々筆ヲ走ラシ聞見ノ實録  
ト諸書ノ撮譯トヲ揮寫シテ數十葉ノ寥々タル  
紙面ニ千百般ノ堂々タル事件ヲ載セリ故ニ學  
者之ヲ讀テ事ノ梗概ヲ窺得スルモ遂ニ未タ真  
味ヲ嘗メ佳境ニ入ルニ由ナシ恰モ堂ニ上テ尚  
室ニ入ラサルカ如シ故ニ或ハ其解ヲ誤ランモ  
計ル可ラス其甚シキハ或ハ不解ヲ以テ解ト爲  
サンモ知ル可ラス余コレカ爲ニ恐レ因テ今爰  
ニ彼法律書經濟書等ノ中ヨリ撮譯シテ先ツ人

問ノ通義英版ノ英律ヲ抄譯ス及ヒ收稅論亞版  
ララント氏ノ經二箇条ヲ舉テ其議論ノ詳ナル  
ヲ示シ以テ第二篇ノ備考ニ供ス學者宜シク此  
二条ヲ初篇ノ備考及ヒ外篇三冊去ノ議論ニ參  
合シテ逐漸彼國ノ風俗事情ヲ知リ本篇中各國  
ノ史記政治等ノ箇条ヲ讀テ新奇不審ト思フ事  
モアラハ等閑ニ之ヲ看過スルヲナクシテ顧テ  
備考ニ就キ丁寧反覆互ニ相照ラシテ其事ノ由  
テ來ル所以ノ沿革ヲ察シ其物ノ由テ生スル所  
以ノ原因ヲ詳ニ考ハ則チ以テ大ナル過ナキニ

幾幾カラシ乎但ニ第二篇モ初篇ノ体裁ヲ改メ  
ス全篇三冊ノ内第一冊ヲ以テ備考ト爲シ其紙  
葉ニ限アレハ初篇備考中ノ諸箇条ヲ盡ク詳論  
スル能ハス故ニ唯其首ノ二条ヲ揭示スルノミ  
ニテ餘ハ之ヲ第三篇ニ譲リ亦以テ其備考ニ供  
ス可シ

普天ノ下卒土ノ濱均シク是レ人類ナレハ其天  
然ノ性情ハ億兆皆同一軌ナリト雖モ其國体風  
俗ニ至テハ則チ然ラス此ノ所輕ヲ彼ニ重シ彼  
ノ所重ヲ此ニ輕スルノ差異ナキニ非ラサレハ

彼ノ常言モ我耳ニ新ニキヲアリテ洋書ヲ翻譯  
スルニ臨ミ或ハ安當ノ譯字ナクシテ譯者ノ困  
却スルヲ常ニ少ナカラズ譬ヘハ譯書中ニ往々  
自由原語ヲ通義原語ヲノ字ヲ用ヒタルヲ多シ  
ト雖モ實ハ是等ノ譯字ヲ以テ原意ヲ盡スニ更  
ラス就中此篇ノ卷首ニハ專ラ自由通義ノ議論  
ヲ記シタルモノナレハ特ニ先ツ此二字ノ義ヲ  
註解シテ譯書ヲ讀ム者ノ便覽ニ供スルヲ左ノ  
如シ

第一 リバルナトハ自由ト云フ義ニテ漢人

ノ譯ニ自主、自專、自得、自若、自主宰、任意、寬容、從容、等ノ字ヲ用ヒタレド未タ原語ノ意義ヲ盡スニ足ラズ

自由トハ一身ノ好ムマ、ニ事ヲ爲シテ窮屈ナル思ナキヲ云フ古人ノ語ニ一身ヲ自由ニシテ自カラ守ルハ萬人ニ具ハリタル天性ニテ人情ニ近ケレバ家財富貴ヲ保ツヨリモ重キヲナリト

又上タル者ヨリ下ヘ許シコノ事ヲ爲シテ差<sup>サ</sup>構<sup>カ</sup>ナシト云フヲナリ譬ハハ讀書手習ヲ終リ

遊ビテモヨシト親ヨリ子供ヘ許シ公用終リ役所ヲ退キテモヨシト上役ヨリ支配向ヘ許ス等是ナリ

又御免ノ場所御免ノ勸化、殺生御免ナドイフ御免ノ字ニ當ル

又好惡ノ出来ルト云フヲナリ危キ事ヲモ犯シテ爲サ子バナラヌ心ニ思ハヌ事ヲモ枉ケテ行ハ子バナラヌナド、心苦シキヲノナキ趣意ナリ

故ニ政事ノ自由ト云ハ其國ノ住人ヘ天道

自然ノ通義下ニ詳ヲ行ハシメテ邪魔ヲセズ  
コナリ開版ノ自由ト云ヘハ何等ノ書ニテモ  
刊行勝手次第ニテ書中ノ事柄ヲ咎メザルコ  
ナリ宗旨ノ自由トハ何宗ニテモ人々ノ信仰  
スル所ノ宗旨ニ歸依セシムルコナリ千七百  
七十年代亞米利加騷亂ノ時ニ亞人ハ自由ノ  
爲ニ戰フト云ヒ我ニ自由ヲ與フル歟否ザレ  
ハ死ヲ與ヘヨト唱ヘシモ英國ノ暴政ニ苦シ  
ムノ餘民ヲ塗炭ニ救ヒ一國ヲ不羈獨立ノ自  
由ニセント死ヲ以テ擔ヒシコナリ當時有名

ノフアンキリンガ云ヘルニハ我身ハ居ニ常  
處ナレ自由ノ存スル所即チ我居ナリトノ語  
アリサレバ此自由ノ字義ハ初篇卷之一第七  
葉ノ割註ニモ云ヘル如ク決シテ我儘放盪ノ  
趣意ニ非ラス他ヲ害シテ私ヲ利スルノ義ニ  
モ非ラス唯心身ノ働ヲ逞シテ人々互ニ相妨  
ケス以テ一身ノ幸福ヲ致スヲ云フナリ自由  
ト我儘トハ動モスレハ其義ヲ誤リ易シ學者  
宜シシコレヲ審ニスヘシ

第二 ヲイトハ元來正直ノ義ナリ漢人ノ

譯ニモ正ノ字ヲ用テ或ハ非ノ字ニ及シテ是  
非ト對用セシモアリ正理ニ役テ人間ノ職分  
ヲ勤メ邪曲ナキノ趣意ナリ

又此字義ヨリ轉シテ求ム可キ理ト云フ義ニ  
用ルコアリ漢譯ニ達義通義等ノ字ヲ用テ  
レ氏詳ニ解シ難シ元來求ム可キ理トハ催促  
ハル筈又ハ求テモ當然ノコト云フ義ナリ譬  
ヘハ至當ノ職分ナクシテ求ム可キノ通義ナ  
シト云フ語アリ即チ己カ身ニ為ス可キ事ヲ  
ハ爲サズシテ他人ヘ向ヒ求メ催促スル筈ハ

ナシト云フ義ナリ

又事ヲ爲ス可キ權ト云フ義アリ即チ罪人ヲ  
取押ルハ市中廻方ノ權ナリ

又當然ニ所持スル筈ノコト云フ義アリ即チ  
私有ノ通義ト云ヘハ私有ノ物ヲ所持スル筈  
ノ通義ト云フコナリ理外ノ物ニ對シテハ我  
通義ナシトハ道理ニ叶ハス物ヲ取ル筈ハナ  
シト云フ義ナリ人生ノ自由ハ其通義ナリト  
ハ人ハ生ナガラ獨立不羈ニシテ束縛ヲ被ル  
ノ由縁ナク自由自在ナル可キ筈ノ道理ヲ持



ツト云フコナリ

明治二年  
己巳季秋

福澤諭吉 誌

西洋事情二編目錄

卷之一

人間ノ通義

英國人民ノ自由○一身ヲ安穩ニ保スルノ  
通義○一身ヲ自由ニスルノ通義○私有ヲ  
保ツノ通義○此通義ヲ達スル所以ノ安心  
ヲ論ス

収税論

一國ノ公費ヲ給スルノ法ヲ論ス  
収税ノ主意ヲ論ス

- 一 國ノ財ヲ費ス可キ公務ヲ論ス
- 第一 政府ヲ維持スルガ爲ニ財ヲ費ス事
- 第二 人民ヲ教育スルガ爲ニ財ヲ費ス事
- 第三 宗旨ヲ護持スルガ爲ニ財ヲ費ス事
- 第四 國內ノ營繕ニ財ヲ費ス事
- 第五 貧人救助ノ爲財ヲ費ス事
- 第六 軍國ノ備ニ財ヲ費ス事

卷之二

魯西亞

史記

政治

海陸軍

錢貨出納

卷之三

佛蘭西

史記

卷之四

佛蘭西

史記

政治

海陸軍

錢貨出納

此書始テ稿ヲ起ス氏全編三冊ノ積リナリシガ  
佛蘭西ノ条ヲ譯スルニ至リ其史記ノ事柄多端  
ニシテ安ニ之ヲ略シ難ク是ガタメ止ムヲ得ス  
シテ紙ノ數ヲ増シ四卷ニテ事ヲ終リタレバ書  
冊ノ牀裁初編ノ目錄ト符合セズ又此編ノ例言  
ニモ齟齬セリ蓋シ佛蘭西ハ歐羅巴洲ニテ四達  
ノ地位ヲ占メ全洲各國ノ治亂十二七八ハ佛ニ  
關係アラザルモノナシ故ニ佛ノ史記ヲ明ニス  
レハ亦以テ他國ノ歴史ヲ讀ムノ一大助トナル  
可シ此編特ニ佛ノ史記ヲ詳ニスルモ譯者ノ微  
意ナキニ非ラス看官コレヲ厭フ勿レ

西洋事情二編卷之一

備考

人間ノ通義

福澤諭吉

纂輯

英國人民ノ自由○一身ヲ安穩ニ保スル  
ノ通義○一身ヲ自由ニスルノ通義○私  
有ヲ保ツノ通義○此通義ヲ達スル所以  
ノ安心ヲ論ス

一國律ハ人民ノ身ヲ處シ交ヲ結ブノ規則ニシテ  
正理ヲ勸メ邪惡ヲ禁スルモノナレハ國ノ法律

ヲ論スルノ大綱領ハ先ツ理非ヲ辨スルニ在  
ナリ

此正理トハ何ゾヤ曰ク人ノ通義ナリコレニ  
様ノ別アリ乃チ人ノ身ニ係ル事ヲ一身ノ通義  
ト云ヒ所有ノ物ニ係ル事ヲ物ノ通義ト云フ邪  
惡ニモ亦二様ノ別アリ其一ヲ私惡ト云フ私惡  
トハ一人ノ私ヲ害シタル罪ナリ其一ヲ公惡ト  
云フ公惡トハ天下ノ公法ヲ犯シ衆人ノ害ヲ爲  
シタル罪ナリ公惡ヲ犯シタル者ハ必ス私惡モ  
人物ノ私盜ムモノハ公惡ナリ犯セリハ必ス私  
人ノ私所有ヲ奪フ所ノ罪ナリ以テ之ヲ論ズレバ私

惡ナル人ヲ殺セハ天下ノ爲メ一人ノ殺  
滅スルナリ且此惡例ニ倣ヒ更ニ一人ノ殺  
ラバ遂ニ天下衆人ノ大害ト爲ル可キ故ニ其  
之ヲ私惡ト云ハズ物ヲ盜ムモノモ之ニ同  
罪物ヲ借リテ返サズル者ト同日ノモ論ニ  
惜リテ返サズルモノハ其財ヲ償テ罪ヲ謝ス  
シト雖モ其盜罪ハ免ル可ラズ

右ノ所以ニ由リ英國ノ法律ハ之ヲ四目ニ分テ

第一 一身ノ通義ヲ説キ其得失ヲ論ス

第二 物ノ通義ヲ説キ其得失ヲ論ス

第三 常法ヲ害スル私惡ヲ説キ之ヲ改メテ正

ニ歸セシムルノ所以ヲ論ス

第四 公惡ノ大罪ヲ説キ之ヲ刑シテ禍ヲ防ノ  
ノ所以ヲ論ス

一身ノ通義ハ天下ノ衆人各皆コレヲ達ス可キ  
ノ理ナリ概シテ之ヲ人間當務ノ職分ト稱ス又  
人ノ身ニ在テハ天然ト人爲トノ別アリ天然ノ  
身トハ天ヨリ生シタル儘ノ身ヲ云ヒ人爲ノ身  
トハ同社又ハ政府ヲ建ルガ爲人智ヲ以テ法律  
ヲ設ケ此法律ニ從テ進退スルモノヲ云フ譬ヘ  
ハ某ノ同社ト云ヒ某政府ノ官負ト云フカ如キ  
皆是ナリ

一身ノ通義ニモ亦有係ト無係トノ別アリ無係  
ノ通義トハ只一人ノ身ニ屬シ他ニ關係ナキモ  
ノヲ云フ有係ノ通義トハ世俗ニ居リ世人ト交  
リテ互ニ關係スル所ノ通義ヲ云フ今此条ニ於  
テハ無係ノ通義ノミヲ論ス

右ノ故ヲ以テ無係ノ通義ハ人ノ天賦ニ屬シタ  
ルモノナレハ天下ノ衆人世俗ノ内ニ交ルモノ  
モ又ハ世俗ノ外ニ特立スルモノモ均シク共ニ  
此通義ヲ達ス可キ理ナリ然レバ一身當務ノ職  
分ハ稍其旨ヲ異ニシ人爲ノ法律ニ由テ人ヲ責

要シテ之ヲ守ラシム可キニアラス但國法ノ  
旨トスル所ハ人ノ行為動作ヲ正シ之ヲ制スル  
モノナリトハ雖モ原來世俗ノ交際上ニ就テノ  
ミ施行スルモノナレハ一身ノ職分ニ關係セス  
只世俗交際ノ職分ヲ責ムベキノミ譬ヘハ命爰  
ニ一人アリ其心ハ自暴自棄其行ハ放僻邪侈ナ  
リトモ私ニ其惡ヲ蔽フテ外ニ公ニセス曾テ治  
世ノ典型ヲモ犯セシト無クシハ如何ニ法律ヲ  
明察ニストモ其罪ノ由テ罰ス可キナシ却テ之  
ト異ニシテ酣醉潦倒長鯨ノ飲ヲ為ス如キ唯獨

リ其人ノ一身ヲ害シテ他ノ妨ケヲ爲サザルニ  
似タリト雖モ其舉動既ニ世間ニ公明ナル所ハ  
惡風ヲ流シ人心ヲ誘ヒ遂ニハ世俗一般ノ弊端  
ヲ醸ス可キカ故ニ國法ヲ以テ之ヲ止メザル可  
ラス之ニ由テ是ヲ考レハ各人當務ノ職分ヲ破  
ルニ當リ國法ノ及フ所ハ私破ト公破トニ由テ  
其別アリ故ニ曰ク公ニ身ヲ慎ムハ人ニ對シテ  
ノ職分ナレハ國ノ法律ヲ以テ之ヲ勸懲スベシ  
私ニ身ヲ慎ムハ一身無係ノ職分ニシテ他ノ關  
リ知ル所ニアラザレハ世間人爲ノ法ヲ以テ之

ヲ勸メ之ヲ止メ能ハズト○右ハ人生ノ職分ニ  
就テノ議論ナリ其通義ニ至テハ蓋シ之ニ異ナ  
リ人生ノ通義ハ假令一人無係ノ身ヲ以テ之ヲ  
論スルモ世俗交際ノ身ニ就テ之ヲ論スルモ私  
公ノ別アルヲナク其通義ハ必ス其人ニ属スル  
モノニテ且國法ニ在テモ人ノ通義ハ動カス可  
ラサルモノトセリ

人生無係ノ通義トハ其個條多シト雖先ツ綱  
領ヲ舉テ名義ヲ下サハ即チ人生天賦ノ自由ナ  
リ自由トハ何ソヤ我心ニ可ナリト思フ所ニ後

テ事ヲ爲スヲ云フ其事ヲ爲スヤ只天地ノ定理  
ニ從テ取捨スルノミニシテ其他何等ノ事故  
ルモ分毫モ敢テ束縛セラル、ヲ無ク分毫モ敢  
テ屈撓スル、ヲ無シ以上ノ論ハ金ク世間ニ關係  
セバ爾通義自由ヲ云フト  
思フ然リト雖人トシテ既ニ世俗人間ノ交際  
ニ加ハルハ此交際上ヨリシテ我ニ得ル所ノ  
惠澤裨益モ亦大ナレハ之ヲ償フカ爲、天ノ賦  
與セル一身ノ自由ヲモ聊カハ棄却スル所ナカ  
ル可ラズ譬ヘバ猶互市貿易ヲ爲スガ如シ我自  
由ノ一部ヲ棄テ、世間ノ規矩ニ從、以テ其惠

澤ヲ被ルナリ斯ノ如ク國法ニ從順スルハ我自  
由ヲ棄ルニ似タリト雖其其實ニ棄ル所ハ蠻野  
人民ノ自由ナレハ所得所失ヲ償テ萬々餘リア  
蠻野人民ノ自由トハ何ゾヤ乃チ居處定マラ  
ズ眠食恒ナク無知無學ヲ以テ自ラ安足シ世  
間風俗ノ何様ナルヲ知ラズ蠡爾トシテ生涯ヲ世  
送ルモノヲ云フ蓋シ文化ノ盛ナル世界ニ在テ  
ハ許サハル所大凡輕重大小ノ分ヲ解スルノ人  
ノ自由ナリ  
ハ我一身ノ隨意ヲ達センガ爲妄リニ威力ヲ逞  
フセント欲スルモノ無ルベシ若シ一人斯ノ如  
クナラバ他人モ亦各其力ヲ逞フシ互ニ隨意ヲ  
以テ相争ヒ遂ニハ生靈ノ依頼スル所ナキニ至

ルベシ故ニ處世ノ自由トハ人々此世ニ處シテ  
其世俗人間中ノ一人タル身分ヲ以テ受ケ得タ  
ル所ノ自由ナレハ天賦ノ自由ニ人爲ノ法ヲ加  
ヘテ稍其趣ヲ變シ以テ天下一般ノ利益ヲ謀リ  
タルモノナリ之ニ由テ考フレハ法律ヲ設ケテ  
人ヲ害スルノ罪ヲ制スルハ其狀或ハ人ノ天賦  
ノ自由ヲ減ズルニ似タレ其其實ハ之ニ由テ大  
ニ處世ノ自由ヲ増加セリ然リト雖其事實緣由  
ナクシテ漫ニ人民ノ意志ヲ束縛スルモノハ皆  
之ヲ暴政ト云テ可ナリ加之國法ヲ以テ人民ノ



進退ヲ處スルニ當リ假令之ヲ處スルニ全ク其  
人ノ利害ヲ移スト無シト雖モ更ニ一層ノ美事  
ヲ生ス可キ目的モナクシテ安リニ事ヲ興起シ  
其人ヲ動搖スルハ乃チ亦人ノ自由ヲ妨ルノ法  
ト云テ可ナリ之ニ反シテ法律ニ由リ一人ノ進  
退ヲ處スレハ随テ天下一般ノ利ヲ生ズベキ確  
實ノ着見アラハ人モ亦私心ヲ去リ些少ノ意見  
ヲ屈シテ更ニ天下ノ要事タル一般ノ自由ヲ存  
セザル可ラス即チ一國獨立ノ風俗ヲ助ルノ所由  
ナリ故ニ國法ヲ設クルニ慎思小心ヲ加ルハ

決シテ人ノ自由ヲ妨ルニアラス却テ人ヲ自由  
ニ導クノ端コレヨリ生ス可シ試ニ見ヨ世界萬  
國法律ヲ設ケズシテ善ク人民ノ自由ヲ存スル  
モノアル乎抑政府ヲ立テ法律ヲ設クモ一大  
要事ハ人民ヲシテ身躬カラ其身ヲ持シテ處世  
ノ自由ヲ保タシムルニ在リト雖モ或ハ天下一  
般ノ大利ヲ謀リ其輕重ニ從テ一人ノ身ヲ制シ  
其進退ヲ御スルモ亦妨ナシ

我英國人民ノ通義トハ何ツヤ即其一身ノ自由  
ナリ此自由ノ趣旨ヲ主張セシハ決シテ一朝一

タノ偶然ニ出タルニアラズ方ニ政府ノ体裁ヲ  
成セシキヨリ其源ヲ開キ政府ノ体裁ト國民ノ  
自由ト恰モ共立並行セリ古來數十百年ノ間ニ  
ハ或ハ暴君ノ爲ニ此自由ヲ妨ケラレタルヲア  
リ或ハ一途ニ自由ノ度ヲ失シテ浮華無實ノ流  
俗ニ陷リ無政無君ノ擾亂ニ遭ヒシヲアリ此時  
代ニ於テハ世間ノ洶々タルヲ殆ト暴君ノ政ニ  
窘メラル、ヨリモ更ニ甚タシカリシ然リト雖  
氏從來我英政ノ自主自由ヲ重ニスルニ由リ其  
盛大ナル勢ヲ以テ遂ニ人民ヲ塗炭ニ救ヒ争亂

隨テ治マレハ隨テ又人民ノ通義自由ヲ挽回シ  
テ其本分ヲ得セシメ尚又時代ノ沿革ニ從ヒ議  
事院ノ議論ヲ以テ益其趣旨ヲ主張シ難ヲ凌キ  
危ヲ冒シテ以テ今日ノ盛ニ至リシノリ  
英國人民ノ自由ヲ得シ所以ヲ尋ルニ第一着ハ  
千二百十五年<sup>マダナチヤ</sup>ジョン王ノ時ニ當リ自由ノ大法  
ル<sup>マダナチヤ</sup>ヲ立テ其子第三世ヘヌリ王ノ代ニ至  
リ議事院ニ於テ尚又之ヲ増補正定シ次テ<sup>マダナチヤ</sup>コ  
スルマシヤ・カルタロムト云ヘル法令ヲ下タシ  
「マダナチヤル」タノ大法ヲ以テ國中一般ノ常法ト

定ノ從來此大法ノ趣旨ニ戾レル裁判ノ諸法ヲ  
廢止セリ其後第一世エドワルト王千二百七十  
二年即位  
ノ代ヨリ第四世ヘスリ王千三百九十  
九年即位ノ代ニ至  
ルマテ種々ノ法律ヲ立テシナレ氏皆從來行ハ  
ル、所ノ國民自由ヲ固クスルモノナリ又下テ  
第一世チャールズ王千六百二十  
五年即位ノ初メニ當リ議  
事院ニテベナショレヲノライト云ヘル法令ヲ  
布告セリ是亦國民自由ノ趣旨ヲ主張シタルモ  
ノナリ第二世チャールズ王千六百六  
十年即位ノ代ニ至リ  
ハビースコルプスト云ヘル法令ヲ定メ第三世

井ルレム王千六百八十  
八年即位ノ代ニハビ  
ルト云ヘル法ヲ定メ其後十七百年代ノ初井  
ルム王ノ崩後ニハアクトヲフセツトルメン  
ト云ヘル法ヲ定メタリ是等ノ諸法ハ皆年代ノ  
沿革ニ隨テ決定セシモノニシテ其趣意ハ國民  
ノ自由ヲ維持固保スルモノナリ  
英國人民ノ通義特典ヲ布告セシ法令ノ多キ  
其數前条ニ揭示スルガ如シ其通義トハ國民一  
身ノ自主自由ナレト畢竟天下ノ公利ヲ謀テ私  
利ヲ去リ天賦自由ノ棄ツ可キヲ棄テ以テ一身

ニ殘レル所ノ自由アリ或ハ又一身天賦ノ自由ヲ棄テシ其代トシテ更ニ得タル所ノ處世ノ自由アリ今此通義ヲ分テ三類ト為ス曰ク身ヲ安穩ニ保護スルノ通義曰ク身ヲ自由ニスルノ通義曰ク私有ヲ保ツノ通義是ナリ大凡人生天賦ノ自由ヲ害スルトハ他ナシ只此三ノ通義ヲ妨ルヲナリ故ニ此通義ヲ保護スルハ即我英人處世ノ自由ヲ保護スルノ趣意ナリ

第一 身ヲ安穩ニ保護スル通義トハ生命ヲ保テ四肢ヲ保テ身軀ヲ保テ健康安寧ヲ保テ名聲面

目ヲ保ツヲ云フ

甲 生命ヲ保ツハ各人天賦ノ通義ナリ未タ此世ニ生レスト雖既ニ母ノ胎内ニ在テ胎子運動ノ機ヲ生スルハ國法ニ於テ之ヲ一人ノ生命ト為ス故ニ孕婦自ラ藥ヲ用テ墮胎スル歟或ハ孕婦ヲ打テ之ヲ害シ其婦人コレガ為ニ墮胎シテ死子ヲ生シタルハ一樣ニ殺人ノ大罪ト為ス又國法ニ於テ胎子ハ父兄ノ遺物ヲ受クベシ之ニ家産ヲ讓ルベシ胎内ノ子ニテ家名ヲ相續スルノ類ヲ云フ家産ヲ讓テ之ヲ為其後見ヲ命スルヲ既生ノ幼子ニ

異ナルヲ無ル可シ是等ノ個條ニ於テハ世俗ノ  
國法ト人生天然ノ定則ト毫モ相戾ルヲナシ  
人ノ四肢ハ外患ヲ防テ一身ヲ守リ天然ノ形  
骸ヲ保ツ所以ノモノナリ然レハ此手足ヲ自由  
ニ用ユルハ即チ天然ノ通義ナリ故ニ人トシテ  
人間處世ノ自由ヲ破ルニ非サレハ決シテ其人  
ノ手足ヲ殘ス可ラス英國ノ法律ニ於テハ人ノ  
生命ト手足トヲ重ニスルヲ最モ甚タシ自己ノ  
生命ヲ防禦シ自己ノ手足ヲ防禦センガ爲ニハ  
其相手ノ者ヲ殺スモ妨ゲナシトセリ蓋シ生命

ト四肢トヲ保護スルハ人間第一ノ要事ト看做  
セルモノナリ譬ヘハ爰ニ一人アリ偶然死ニ迫  
リ之ヲ恐ルハノ餘リ止ムヲ得ズシテ家産受授  
ノ證書ヲ記ス等ノコアレバ假令證書ノ文ハ本  
來ノ規矩ヲ具フルトモ後日ニ至リ自然此證書  
ヲ認メタル所以ハ元來本人ノ真意ニ出テシニ  
非ズシテ生命ヲ失ヒ手足ヲ殘ハントスルノ危  
難ニ迫リ止ムヲ得ス之ヲ認メタルノ證據ヲ得  
ルヤハ其證書ヲ廢紙トスルヲ法トス總シテ國  
法ノ趣意ハ人ノ生命ヲ重ンシ之ヲ保護スル

ミナラズ又之ヲ養フ所以ノ方便ヲ備ヘザル可  
ラス故ニ國中ニハ窮民ナカル可キノ理ナレバ  
若シ不幸ニシテ窮民アルキハ富人ノ物ニ資テ  
生命ヲ養フモ妨グトセズ乃チ國ニ救窮法ノ設  
アル所以ナリ

生命及ビ四肢ノ通義ハ只死シテ然シテ後止ム  
ノミ昔者人ノ死ヲ二様ニ分チ一ヲ世俗ノ死ト  
爲シ一ヲ天然ノ死ト爲ス世俗ノ死トハ何ゾヤ  
其國ヲ出奔シ或ハ出家シテ宗門ニ歸スルヲ云  
フ國ヲ出奔シ宗門ニ歸スル者ハ國法ヲ以テ之

ヲ論スレハ死者ニ異ナル無シ故ニ其家産ハ相  
續ノモノヘ與フルヲ常典トセリ蓋シ在昔家産  
ヲ有スルニ天然ノ生涯ノ間之ヲ所持スル等ノ  
語アリシハ即チ右ニ云ヘル世俗ノ死ト天然ノ  
死トノ區別ナリ此天然ノ生ハ他人ノ力ヲ以テ  
敢テ害ス可キニアラズ亦自己ノ意ヲ以テ自由  
ニ害ス可キモノニ非ラズ只極惡大罪ヲ犯シ人  
間世俗ノ法律ヲ破ルモノアレバ乃チ法ヲ以テ  
其人ノ生命ヲ奪フヲアルノミ蓋シ近世英國ニ  
テハ事實止ムヲ得ザルノ外ハ人ヲ死刑ニ處セ

ズシテ寛典ニ從フヲ常トス

丙 四肢ノ外總シテ人ノ身体髮膚ハ天然ノ理ヲ以テ之ヲ保護スルノ通義アリ即チ人ノ身体ハ安リニ之ヲ劫カス可ラズ之ヲ痛ム可ラス之ヲ打ツ可ラス之ヲ疵ツク可ラズ

丁 危ニ近ヅカズシテ健康ヲ守ルモ是亦一身ヲ安穩ニスルノ通義ナリ

戊 他ノ無禮誹謗ヲ防テ我面目ヲ守リ我名聲ヲ保ツハ天然ノ正理ナレハ人々此理ヲ主張スルモ義ニ於テ妨グアルヲ無シ抑人トシテ一身ノ

面目ヲ失テ其名聲ヲ落スルハ決シテ他ノ通義ヲ伸バス能ハサレバナリ

第二 英國ノ法ニ於テハ先ツ國民一身ノ安穩ヲ重シ繼テ又其自由ヲ重シ其自由ヲ附與シ其自由ヲ保護スルヲ主意トセリ一身ノ自由ハ元來人トシテ天然ニ備ハル所ノ通義ニシテ之ヲ存スルハ尚其安穩ヲ保ツノ理ニ異ナルナシ故ニ英律ニ於テハ決シテ安ニ人ノ自由ヲ抑制スルヲナシ假令官府ノ意ヲ以テ人ヲ制セント欲スルモ國律ノ許サ、ル所ハ之ヲ施行スルヲ

得サルナリ

一身ノ自由ヲ保護スルハ國ノ爲ニ一大緊要事  
トセリ譬ヘハ隨意ニ人ヲ囚ルノ權ヲ一二ノ官  
吏ニ付與スル歟若クハ無上ノ君主ヲシテ此權  
柄ヲ握ラシムルヲアラバ諸般ノ通義一時ニ廢  
滅スベシ何據ノ仕方ニテモ人ヲ強ヒテ勒ムル  
ハ之ヲ囚ト名ヅク故ニ人ノ意ニ逆テ之ヲ私家  
ニ勒メ或ハ之ヲ道路ニ勒メテ其行ヲ妨ルハ即  
チ其人ヲ囚ルニ異ナラズ英律ニ於テ一時人ニ  
迫ラレ止ムヲ得ズシテ奉公仕役等ノ證書ヘ調

印セシ者アリテ後日ニ至リ其奉公仕役ハ本人  
ノ意ニアラザレバ若シコレヲ肯ゼザレハ捕ハ  
ルベキノ勢アリテ恐迫ノ餘止ムヲ得ズシテ  
證書ニ調印セシトノ旨ヲ訴ルヤハ其證書ヲ廢  
紙トスルノ法ナリ抑謂レナク妄ニ人ヲ囚ルノ  
弊端ヲ防クガ爲ニ此法アルナリ故ニ法ニ從テ  
人ヲ捕ヘントスル者ハ必ず裁判局ノ命ヲ奉シ  
或ハ他ノ人ヲ捕フベキ官吏ノ保證ヲ得サル可  
ラス且此保證トハ其人ヲ捕ル所以ノ趣意ヲ書  
記シ之ニ官吏ノ姓名ヲ記シテ調印シタルモノ



ナリ若シ此書中ニ召捕ノ趣意ヲ掲明セザル所  
ハ獄屋ノ番兵ニテモ必ス其人ヲ守ルヘキ理ア  
ラザレハ之ヲ放テ妨ナシ

右ノ如ク一身ノ自由ヲ存スルガ故ニ大凡英國  
ノ人民ハ其國ニ住居セント欲スレハ乃チ之ニ  
住居スルノ權アリ何様ノ事故ニ由ルトモ罪ヲ  
犯スニ非ザレハ強テ國外ニ逐ハルノ理ナシ  
元來英國ノ常法ニ於テハ遠謫ノ科ナシ若シ之  
アルハ近世議事院ノ評議ニテ定タル所ノ律ナ  
リ

總テ英國ノ法律ハ民ノ自由ヲ重シテ之ヲ設  
ケタルナリ故ニ國內ニ在テハ國王其臣下ニ令  
スルノ權アリト雖氏之ヲ國外ニ出スニ於テハ  
段令一國ノ公務タリトモ王命ヲ以テ強テ人ヲ  
仕役ス可ラス譬ヘバ阿爾蘭<sup>アイルランド</sup>ノ鎮臺若クハ外國  
在留ノ公使ノ如キハ假令大官高位ナルトモ其  
本人ノ意ニ逆テ之ヲ命ス可テズ蓋シ其人ノ本  
意ニアラサル者ヘ強テ國外ノ仕役ヲ命スルハ  
其名ハ美ナリト雖氏其實ハ敬シテ之ヲ遠クル  
ナリ但シ國王ノ命ヲ以テ國外ノ役ニ強テ用ユ

ベキモノハ只水夫ト兵卒トノミ水夫兵卒ノ職  
ハ乃チ國ノ典常ニ裨ルモノナリ

第三 英人ノ備有スル第三ノ通義ハ即チ其私有  
ノ通義ナリ私有ノ通義トハ各人私ニ有スル所  
ノ物ヲ其人ノ自由ニ從テ之ヲ用ヒ自由ニ之ヲ  
處シ自由ニ之ヲ樂ミ國ノ法律ヲ敗ルニアラサ  
レバ分毫モ敢テ他ノ抑制ヲ受ケザルヲ云フ元  
來國法ノ主意モ人ノ通義ヲ妨ルニアラズ乃チ  
之ヲ保護スルヲ主務トセリ蓋シ英國ノ法ニ於  
テハ人ノ私有ヲ至大至重ノモノトシテ極テ之

ヲ貴ビ當ニ之ヲ害セザルノミナラズ假令全國  
人民ノ大利ヲ起スベキ事件アリト雖モ一人ノ  
私有ヲ害スルハ敢テ之ヲ為サズ譬ヘバ今新  
ニ路ヲ作ルニ某人私有ノ地面内ニ交直スルキ  
ハ大ニ衆人ノ為ニ便利ナリト雖モ主人ノ然諾  
ヲ得ルニ非サレハ何人タリトモ敢テ其地ヲ犯  
スヲ得ス此時ニ當リ國法ヲ以テ施スベキ處置  
ハ只其人ヲシテ至當ノ價值ヲ以テ之ヲ賣ラシ  
ムルノミ且又政府ニテ假令此處置ヲ施ストモ  
宜シク謹慎ヲ加ヘ決シテ威力ヲ恣ニスルヲ得

天下衆庶ノ公利ヲ謀ルトモ之カ爲ニ一人ノ私  
有ヲ強奪スルヲ得ザルノ例ハ只前条ノ一事ノ  
ミナラズ英律ノ内ニハ其例極メテ少ナカラズ  
譬ヘバ英國ノ人民ハ假令其本國ヲ防守シ其政  
府ヲ保持スル爲ナリト雖モ國民自己ニ全ク然  
諾シタル所ニ非サルバ之ヲ促カシテ税ヲ收メ  
シム可ラズ即國民ノ自己ニ然諾スルトハ議事  
院ニ出席スル國民ノ名代人ニテ之ヲ許スヲ云  
フ古來錢貨出納ノ事ニ付キ屢議事院ニテ法令

ヲ定メ其令ニ云アリ王室ノ特權ニ托シ議事院  
ノ然諾ヲ待タズ或ハ議事院ニテ許シタル時限  
ヲ違ヘ或ハ議事院ニテ定メタル法ニ背キ以テ  
國王ノ爲ニ金ヲ集ムルモノハ曲事タルベシト  
ナリ錢穀ノ權柄ハ下院ニ在リ初篇英國ノ  
条及ヒ議事院談ヲ見テ之ヲ知ルベシ  
右ノ条々ハ各人備有スル一身無係ノ通義ヲ説  
キ其要略ヲ示シタルモノニシテ即其通義ぐ一  
身ヲ安穩ニシ一身ヲ自由ニシ私有ヲ保護スル  
三綱ノ通義ナリ然リト雖モ國ノ政治ヲ明ニシ  
他ノ細目ニ係ル通義ヲ存シテ國民ニ付與シ以

テ三綱ノ大義ヲ助ケ之ヲ保護スルニ非サレバ  
法律モ亦一片ノ廢紙ニ屬シ正義ノ名アリテ其  
實ハ無益ナルベシ蓋シ其細目ニ係ル条左ノ如  
シ

甲 議事院ノ体裁。威力。特權。是ナリ

乙 王室ノ特權ヲ抑制シテ明ニ其分限ヲ定メ國  
王ヲシテ必ズ其分ヲ守ラシメ民人ノ然諾ヲ得  
ルニ非サレハ此分限ヲ踰越スルヲ能ハズ又公  
然ト之ヲ犯リスヲ能ハサラシムルヲナリ

丙 冤ヲ被リ害ヲ受ケタル者ハ直ニ裁判局ニ赴

テ之ヲ愁訴スベシ是即チ英國人民ノ備有スル  
所ノ第三ノ通義ナリ英國ニ於テ人ノ生殺ヲ專  
ラニシ人ノ自由ヲ制シ其私有ヲ與奪スルノ權  
ハ只法律ニ在ルノミ故ニ裁判ノ官局ハ平常コ  
レヲ開テ國人ノ訟ヲ聽キ法律ニ從テ其曲直ヲ  
斷シ「ガナチャルタ」ノ大法ヲ守ラザルヲ得ズ蓋  
シ此大法ノ主意ハ人ヲ犯シ人ヲ害スル者アレ  
ハ其罪人ハ宗門ノ人ニテモ世俗ノ人ニテモ其  
區別ヲ問ハズ必ズ其罪ヲ糾問シ賄賂ヲ禁シ言  
路ヲ開キ時日ヲ延引スルヲ無ク公明正大ノ裁

判ヲ行フベシトノコナリ

丁 又或ハ非常ノ事ニ遇テ侵害ヲ被ルコアルニ  
臨ミ法律ノ定式ヲ仰クモ其不平ヲ訴ルニ由ナ  
キバハ乃チ又一種ノ達路アリテ此路ニ由リ以  
テ其冤ヲ白シ其屈ヲ伸スヘシ即チ此達路トイ  
英國人民ノ備有スル所ノ通義ニシテ冤ヲ被リ  
如何トモス可ラサルキハ直ニ躬カラ國王ニ訴  
ヘ或ハ議事院ニ訴フルコナリ其法令ニ云フア  
リ英國人民ハ直ニ國王ニ訴ヘ或ハ議事院ニ訴  
フルノ權アリ若シ此直訴ヲ答ル者アラハ曲事

タルベシト但シ斯ノ如ク直訴ヲ許スバハ又從  
テ謹慎ヲ加ヘ其流弊ヲ防カザル可ラズ若シ否  
ザルバハ人民或ハ愁訴ニ托シテ明黨ヲ結ビ輕  
舉妄動以テ世ヲ誤リ太平ヲ妨ルコアルハナリ

### 收稅論

一國ノ公費ヲ給スルノ法ヲ論ス

天下衆庶ノ製作シタル財貨產物ハ獨リ人々ノ  
私用ニ費スノミナラス亦其一部ヲ分テ一般ノ  
公用ニ供セサル可ラス之ヲ名ケテ公費ト云フ  
但シ此財貨ヲ集メテ之ヲ費スモノハ衆庶ノ代

人ナリ衆庶ノ代人トハ何ゾヤ政府ヲ云ナリ  
此公費ヲ給スルニハ税額ノ法ヲ以テス譬ヘハ  
國家令一事ヲ起サントシテ若干ノ金ヲ要スル  
キハ其金高ヲ國中ノ人民ニ配當シ各人ヲシテ  
其一分ヲ出サシム之ヲ名ケテ税ト云フ既ニ此  
税金ヲ收レハ之ヲ用ヒテ事務ヲ行ノモノハ即  
チ衆庶ノ代人ナリ抑モ其財貨ヲ用ヒ其產物ヲ  
費スノ事情ハ公私共ニ毫モ其趣ヲ異ニセズ物  
ヲ費スルハ其物ノ品位ヲ消滅シ其物ノ用ヲ失  
却スルモノナリ今爰ニ一人ナリ大藥ニ火ヲ點

スレハ忽チ之ヲ燒テ其初メ火藥ヲ製スル代費  
シタル時間ノ價時ハ即チ之ヲ製スルニ用ヒタル材料硝石硫黄ト消滅シ全ク其品位ヲ失  
テ痕跡ヲ見ズ是レ獨リ一人ノ點火者ノミ然ル  
ニアラス抑モ千百ノ人相共ニ之ヲ燒クトモ其  
品位ヲ滅却スルノ状況ハ彼是相異ナルナシ又  
爰ニ土工ヲ起シテ千人ノ役夫ヲ用ヒ千人ノ食  
料ヲ給スルハ其費用モ亦大ナリ然リ而シテ  
此土工一人ニテ企ツルモ百人相共ニ謀リテ  
之ヲ企ルモ其物ヲ費スノ状況ハ相異ナルナ

シ是等ノ異同ハ固ヨリ三歳ノ童子モ亦知ル所  
ナレハ喋々辨論ヲ用ルニ及バス主人身自カラ  
家ヲ焼カザルモ鄰家ノ火ニ由テ類焼スルハ  
其家ヲ失フノ實ハ相同シ主人身自カラ金ヲ失  
ハサルモ番頭ノ不正ニ由テ損ハスルハ其産  
ヲ破ルノ實ハ亦相同シ何ゾ必シモ主人身自カ  
ラ手ヲ下シテ然ル後始メテ家ヲ破リ産ヲ失フ  
ト云ハン概シテ之ヲ云ヘハ元來政府ハ只一國  
人民ノ代人ニシテ國民ニ代テ事ヲ爲スモノナ  
ルガ故ニ國民私有ノ財ヲ費スル當テ政府ノ手

ヲ假リ之ヲ費スモ國民躬カラ手ヲ下シテ之  
ヲ費スモ其物ヲ沒了シ其品位ヲ消滅スルノ理  
ハ彼是同一ナリ

前説既ニ事實ニ於テ然ルナリ故ニ物ヲ費スノ  
法規モ亦公私同一ナラザルヲ得ス物ヲ費シ隨  
テ新ニ物ヲ生スルニ當リ土木ヲ費シテ家ヲ生  
スルノ其生シタル物ハ有形ニテモ無形ニテモ  
之ヲ論スルヲ無ク只其初メ費シタル物ヨリモ  
更ニ價ノ貴キモノヲ生ズレハ之ヲ有益ノ費ト  
名ク家ト酒トハ有形ナレハ即チ之ヲ政治上ニ  
政刑ノ德澤ハ無形ナリ

論スレハ國民租稅ヲ納レ其租稅ノ價ヨリモ  
更ニ尚貴キ政治ノ保護ヲ被ルナリ若シ然ラズ  
シテ其生スル所ノ物及テ其費シタル所ノ物ヨ  
リ賤シキハ之ヲ無益ノ費ト名ク斯ノ如キハ  
則チ國民其稅ヲ納ルヨリ寧ゴレヲ私ニ貯置ク  
ヲ善トス或ハ又然ラズシテ徒ニ物ヲ費シ掌テ  
其代ノ物ヲ生スルヲ見ズンバ之ヲ全損ト名ク  
斯ノ如キハ則チ國民其稅ヲ納メスレテ之ヲ海  
ニ投スルニ等シ寧ゴレヲ海ニ投スルニ等シキ  
ナラズ海ニ投スルニハ勞苦ナク之ヲ做シ得ベ

ケレ其稅ヲ集ルニハ自然其雜費アルヲ免レザ  
ルガエヘニ寧ゴレヲ海ニ投シテ雜費ヲ省クヲ  
善トス尚之ヨリ甚シキモノアリ物ヲ費シテ租  
稅ヲ納メ毫モ其應報ヲ見ス却テ其税金ヲ誤用  
シテ以テ暴政ヲ行フノ資ト爲スニ至テハ其害  
其惡推舉ニ暇アラズ人民ノ膏血ヲ絞リ人民ノ  
私有ヲ奪テ寧ニ其報ヲ得セシメザルノミナラ  
ス其財ヲ集メテ之ヲ暴君汚吏ノ手ニ付與シ反  
テ之ヲ以テ人民ヲ窘メ無二ノ通義ヲ奪フカ如  
キニ至テハ實ニ禍ノ大ナルモノト云フ可シ不



幸ノ甚シキモノト云フ可シ

世人動モスレハ云フアリ一般ノ公用ニ金ヲ  
費スギハ國ノ富ヲ致スベシ或ハ國ヲ富スニ至  
ラサルモ尚且金貨ノ融通ヲ盛ニシ世ノ便益ト  
爲リ且其金ハ常ニ國內ニ在テ外方ニ出テザル  
ガ故ニ決シテ害アルノ理ナシト然リト雖モ今  
此頗僻ノ説ヲ論破スルヲ甚タ容易ナリ乃チ之  
ヲ論破センニハ假ニ一國ノ公用ヲ設ケ國產ノ  
生スル始メヨリ之ヲ費ス所ノ終リニ至ルマテ  
踪跡ヲ追ヒ始末ヲ問フベシ政府ヨリ國民ニ稅

金ヲ使スギハ國民ハ其產物ヲ金貨ニ易テ之ヲ  
稅吏ノ手ニ納ム之ヲ第一段トス之ニ次テ又  
政府ノ吏人ハ此金ヲ以テ兵卒ノ爲ニ武器戎服  
等ヲ買フ之ヲ第二段トス此時ニ及ブ迄ハ未タ  
物ノ品位ヲ失ハス亦之ヲ費スヲ無シ只物ヲ以  
テ金ニ換ヘ金ヲ以テ物ニ易ハタルノミニシテ  
國民ヨリ納メタル物ハ其狀ヲ變シテ官ノ武庫  
ニ存在セリ然リト雖モ末段ニ及ビ此武器戎服  
ヲ用ユレニ至テハ即チ初メ國民ノ手ヨリ收稅  
吏ノ納メシ所ノ物ヲ消滅シテ其品位ヲ沒了ス

ルガ故ニ是亦國ノ富有ヲ減却スルナリ豈之ニ  
由リ以テ國ヲ富スト云フ可ケンヤ  
或人又云フ前ノ論スル所ハ真ニ是ナリト雖  
其消滅シタルモノハ金貨ニ非ス金貨ハ只此手  
ヨリ彼手ニ移リタルノミ國民ノ手ヨリ收稅吏  
ノ手ニ移リシキハ或ハ報アリ或ハ報ナシ官吏  
ノ手ヨリ用達<sup>ヨウダツ</sup>ノ手ニ移リタルキハ其報トシテ  
武器戎服ノ得アリ其報ノ有ト無トハ先ツ之ヲ  
置キ金貨ハ常ニ減消スルヲ無ク三手四手或ハ  
十手ヲ歷ルトモ其價ハ同一ナリ只爰ニ消滅シ

テ形ヲ失ヒタルモノハ武器戎服ナレハ國民身  
自カ<sup>ミ</sup>此金ヲ以テ衣服器械ヲ買ヒ私ニ之ヲ費  
ヤスモ其扶情相異ナル無ケレハ何ゾ公私ノ辨  
ヲ為サンヤ

答テ云フ然リ物ヲ費スノ事情ハ公私ノ別ナシ  
物ヲ費ストハ物ノ品位ヲ消滅スルヲナレハ之  
ヲ消滅シテ其益アルカ其益ナキカヲ決スルノ  
法モ亦公私同一ナリ只宜シク着眼ス可キヲ要  
訣ハ其物ヲ費シ隨テ得ル所ノ利益實ニ費ス所  
ヨリモ大ナル乎抑モ費ス所ニ均シキ乎或ハ費

ス所ヨリモ小ナル乎ノ事件ナリ  
右所述ノ公費ノ法則ハ常ニ行ハレテ妨ナシト  
雖其詳ナルヲ知ラント欲セハ必ス先ツ心ヲ  
平ニシ知ヲ明ニシ以テ其情實ヲ論スルヲ要ス  
蓋シ公費ト云ヒ私費ト云フモ其實ハ趣ヲ異ニ  
スルナシ物ヲ費シ随テ新ニ物ヲ生スルト雖  
其生スル所ノ物ハ必シモ常ニ有形ナラン  
ヲ期ス可ラス或ハ目以テ見ル可ラス或ハ手以  
テ握ル可ラザルモノアリ今政府ヲ維持スルカ  
為ニ物ヲ費シテ租税ヲ納メ其報トシテ生スル

所ノモノハ手ニ觸ル可キノ有形物ナシト雖  
其實ハ國民ノ所得甚大ナリトス乃チ其所得ト  
ハ何ゾヤ一身ヲ安穩ニシ私有ヲ保チ恥辱ニ遠  
カルヲ得ベキ善政美風ノ德澤ヲ蒙ル是ナリ抑  
モ此善政美風ノ物タルヤ權衡以テ量ル可ラス  
繩墨以テ度ル可ラス然リト雖人民ノ幸福ヲ  
保チ其生産ヲ安スルカ為ニハ片時モ之ヲ欠ク  
可ラズ譬ヘハ國民教育ノ為ニ税ヲ納ルモ此類  
ナリ人民教育ノ為ニ税ヲ納メテ其子ニ教育ヲ  
受ルモノハ德澤ヲ蒙ルノ大ナルコト固ヨリ論ヲ

待タズ假令子ナキ者ニテモ天下一般ノ教育ニ  
由テ人ノ聞見ヲ開キ世ノ風俗ヲ變ニスルハ  
我一身ハ以テ安カル可ク我私有ハ以テ固カル  
可シ人ヲ使役シテ事ヲ爲セハ其事善ク成リ人  
ノ爲ニ物ヲ製スレハ其物ヲ求ムルモノ多ク其  
物ヲ用ルヲ廣シ斯ノ如クナルハ假令教育ヲ  
受ク可キ子弟ハ之ナシト雖モ自己ノ身ニ得ル  
ノ德澤既ニ大ナリト云フ可シ又世人ノ明德ヲ  
明ニシ禮義ヲ重ニシ交際ノ風ヲ盛ニシ其趣向  
ヲ高上ニシ國家ノ流風ヲ修メテ善美ニ進マシ

メ人民ノ裨益ヲ與スノ俗ヲ鼓舞シ以テ之ヲ勸  
ノシガ爲ニ天下ノ財ヲ費スモ亦此類ナリ故ニ  
此等ノ趣ヲ以テ大厦高樓ヲ建設シ學校寺院社  
麗ヲ極メ佳美ヲ盡シ或ハ治亂興廢ノ大事ヲ不  
朽ニ表シ塔碑ノ建ノ祭日ヲ祝或ハ發明工夫ヲ  
以テ人知ノ域ヲ廣クシ有益ノ術ヲ改新シタル  
モノ等蒸氣機關傳信機ハ恩賞ヲ與ルカ爲天下ノ  
財ヲ費スモ誰カ敢テ之ヲ難スルモノアラニ是  
等ノ公費ハ經濟家ノ論ニ在テハ固ヨリ許ス所  
ナリ只經濟家ノ要訣ハ斯ノ如ク天下ノ財ヲ費



ハ直ニ七百五十兩ノ金ヲ以テ其地面ヲ政府ニ  
買取ルノ權アリ故ニ地主ハ二歩ノ金ヲ盗マシ  
ト欲シテ二百五十兩ヲ失フナリ收税ノ吏人ハ  
常ニ此法ヲ以テ國民ノ不平欺詐ヲ防クト云フ  
物品税トハ物ヲ製シテ之ヲ費スニ至ルマデノ  
間此人ノ手ヨリ彼人ノ手ニ移ルキニ其物品ノ  
價ニ後テ收ル所ノ税ヲ云フ合衆國ニ於テハ外  
國ヨリ輸入スル品物ハ其到着ノ時直ニ税ヲ収  
ルヲ例トス此税ハ品物ヲ引受ル商人ヨリ之ヲ  
拂ヒ商人ハ又其品物ヲ他人ヘ賣ルキ本價ノ外  
ニ税ノ高ヲ加フルガ故ニ次第ニ人ノ手ヲ經テ  
遂ニ此品物ヲ用ユル人ノ手ニ落ルキハ其物ノ

定價ヨリ貴キ正シク税ノ高ヲ加ヘタルニ等  
シ譬ヘハ大中ノ羅紗一「ヤール」ニ付キ二「ドル  
」ノ税ヲ収ルキハ此羅紗ヲ買フモノハ定價  
ノ外ニ二「ドル」ヲ拂ヘルナリ又方今此原本  
百六十六年合衆國ニテハ石炭一「トン」ニ付キ二  
「ドル」ノ税ヲ収ル故ニ此國ニテ外國ノ石炭  
ヲ用ユル者ハ定價ノ外ニ尚二「ドル」ヲ拂フ  
ナリ斯ノ如ク外國ノ石炭ヨリ税ヲ收ルカ故ニ  
自國ノ石炭モ自然騰貴シテ定價ヨリモ二「ドル  
」ヲ増スニ至レリ

今爰ニ一論アリ分頭税ヲ收ルモ物品税ヲ收ル  
モ均シク國民ノ財ヲ以テ天下ノ公用ニ供スル  
ノ主意ニシテ其實ハ相異ナルヲナシ然レハ則  
チ二法ノ内何レヲ可也トスベキ乎ト  
物品税ノ法ヲ主張スル者ノ説ニ云ク物品税ヲ  
收ルニハ收税吏ト國民トノ間ニ爭論ヲ起ス  
少キカ故ニ分頭税ヲ收ルヨリモ更ニ便利ナリ  
譬ヘハ外國ヨリ品物ヲ輸入スルニ其着到スル  
處ハ僅ニ所定ノ數港ニ過キズ此港ニ着到スレ  
ハ一時ニ其輸入品ノ税ヲ收ルカ故ニ時ヲ費ス

ト少クシテ大ニ煩勞ヲ省クベシ且輸入税ヲ拂  
ヒシ者ハ其品物ヲ他人ヘ賣ルキ物ノ價ニ税金  
ノ高ヲモ加ヘテ之ヲ取ルカ故ニ税ノ輕重ニ心  
ヲ關スルヲ無クシテ之カ為ニ議論ヲ起スモノ  
少シ斯ノ如ク甲ハ乙ニ賣リ乙ハ丙ニ賣リ次第  
ニ數人ノ手ヲ經ルト雖氏改メテ自己ノ手ヨリ  
税ヲ出スト無キガ故ニ其價ノ貴キヲ知ラス終  
ニ其品物ヲ用ル人ニ至リ或ハ價ノ貴キヲ覺ル  
モ其以前ニ買ヒシ時ト比較シテ更ニ貴カラザ  
ルキハ其人モ亦心ニ關スルヲ無シ或ハ又以前

ノ價ヨリモ稍貴キヲアルモ總シテ物價高低ノ  
變アルハ世間通常ノ事ナレハ必シモ之ヲ政府  
收税ノ故ニ歸セス或ハ他事ノ故ニ由テ一時價  
ノ騰貴セシコト、看做スモノ多シ故ニ人或ハ  
云ノ國ノ人民ハ物品税ヲ納メテ之ヲ覺ヘスト  
然リト雖モ予以為ラク人民取テ之ヲ覺ヘザル  
ニ非ス只幾許ノ税ヲ納メシヤヲ知ラス何レノ  
時ニ之ヲ納メシヤノ知ラズ或ハ之ヲ納メシヤ  
納メサリシヤヲ知ラサルノミ之ニ反シテ分頭  
税ヲ納ルニハ人民皆何レノ時ニ之ヲ納メシヤ

ヲ知リ幾許ノ高ヲ納メシヤヲ知ルカ故ニ之ニ  
心ヲ動カスト甚タシ之が爲ニ動モスレハ人民  
ノ不平ヲ生シ時トシテハ政府ノ命ノ拒ムヲア  
リ甚シキニ至リテハ人皆吝嗇ノ心ヲ抱テ税ヲ  
納ムルヲ嫌ヒ遂ニ國內至急ノ要件ヲモ成シ能  
ハサルノ弊ヲ生スルニ至ルヲアリ  
前説既ニ斯ノ如シト雖モ物品税ヲ收ルニハ各  
頭税ヲ收ルヨリモ不正ニ陷ルノ弊多シ物品ニ  
就テ税ヲ取レハ其税ヲ拂フモノハ税ノ多寡ヲ  
知ラサルカ故ニ收税ノ趣意ヲ督察シテ之ヲ議



論スルモノ少シハハ酒ヲ運送シ或ハ之ヲ輸  
稅ヲ拂フモノハ酒ヲ買テ飲ム人ナレハ其酒ヲ  
買フ別段ニ稅ト名ツケテ金ヲ出サハ故ニ  
酒ノ價ハ貴ト雖氏稅金ノ然ラシムルナリ故ニ  
ハ思ハスシテ自然苦情ヲ許ヘサルナリ  
收稅吏ハ此機ニ投シ不正ノ處置ヲ施シテ無偏  
無黨ノ大義ヲ失スルノ害ナキニアラズ故ニ人  
ノ上ニ在テ國家ノ事務ヲ行フモノハ收稅ノ事  
ニ於テ衆ヲ害シ寡ヲ利スルヲ甚々難事ニアラ  
ズ且此私曲ヲ行フニ其事跡ヲ暗昧ニスヘキカ  
故ニ國民モ自然其處置如何ヲ解セズ乃チ知ラ  
ズ識ラズ箠絡ノ中ニ在テ敢テ不平ヲ抱クナ

シ國ヨリ分頭稅ニモ此弊ナレト云フニハアラ  
ズ或ハ各州相互ニ其租稅ノ任ヲ讓ル等ノ惡弊  
アレ氏只其弊ノ行ハル、ト物品稅ニ於ル如ク  
甚シキニ至ラズ且其際ニ當テ不正ノ處置アレ  
ハ衆人皆其蹤跡ヲ了シ得ルカ故ニ自然曲事ノ  
行ハル、ト少キナリ、  
前条所記ノ如ク物品稅ノ法ハ甚々整齊ナラズ  
ト雖氏其論ハ姑ク闕キ他ニ又一個ノ弊アリ即  
チ物品稅ノ法ハ國民ヲシテ公費ノ爲稅ヲ出タ  
サシムルニ其出ス所ノ稅ノ多寡ト國民ノ一身

ニ被ル所ノ保護ノ輕重ト互ニ相支吾ヤリ元來  
物品税ハ其物ヲ費ス所ノ人ヨリ拂フモノナレ  
ハ其人ノ政府ヨリ被ル所ノ德澤ノ深淺ニ從テ  
拂フニ非ス只其費ス所ノ物ノ多寡ニ準シテ之  
ヲ納ルナリ故ニ今百萬ドルナルノ產ヲ有スル  
人ニテモ物ヲ費シテ一身ニ奉スルノ役夫ノ生  
計ノ如ク為ルキハ百萬金ヲ有スルノ富豪モ一  
ドルフルヲ持ツノ役夫モ天下ノ公費ニ金ヲ投  
スルノ高ハ同様ナリ然レハ之ヲ公平ト云フヲ  
得ス

分頭税ニ於テモ亦此弊風ナキニアラス或者ノ  
説ニ云ク分頭税ヲ拂フ者ハ其賣物ノ價ヲ貴ク  
スレハ自然其任ヲ他人ニ讓ルノ様ニテ之ニ由  
テ税額ノ一部ヲ償フベシト此説全ク不可トセ  
ズト雖此弊風ノ及フ所物品税ノ如ク甚シキニ  
至ラス分頭税ヲ拂フガ為其賣物ノ價ヲ貴クセ  
ントスルモ人ノ私有盡ク商賣品ノミニモ非サ  
レハ其賣ル可ラサル所ノ物ニ就テノ税額ハ自  
カラ之ヲ拂ハダフル得ス故ニ云ク分頭税ヲ一  
様ニ收ルキハ其法必ズ物品税ヨリモ公平ニシ

テ國民ヨリ稅ヲ出スノ多寡ト其政府ヨリ德澤  
ヲ被ルノ深淺ト相稱フヲ得ベシ  
前論ノ外ニ又分頭稅ノ法ヲ善トスベキノ理  
リ即チ其法ヨク合衆政治ノ旨ニ適スルトノ  
ナリ抑モ衆庶會議合衆政治ノ旨ハ國民ヲ以テ  
國權ノ基ト爲シ人々身自カラ其身ヲ支配スル  
ヲ以テ大綱領ト爲スモノナレバ今斯ノ如キ政  
府ヲ立ントシ却テ其國民ヲシテ何等ノ稅ヲ拂  
フヤヲ知ラシメズ何レノ時ニ之ヲ拂フヤヲ知  
ラシメズ何様ノ法ニ從テ之ヲ拂フヤヲ知ラシ

メザルハ正ニク其政治ノ旨ニ戾レルモノト云  
フベシ總テ衆庶會議ノ政治ニ於テハ其國民ニ  
對シテ錢穀出納等ノ事件ノ一切秘密ニス可ラ  
ス國民ハ當ニ稅額ヲ拂フノ多寡ヲ知ルノミナ  
ラス其拂ヒシ所ノ税金ヲ政府ニ集メテ之ヲ用  
ルノ處置如何ヲモ傍ヨリ察知セザル可ラズ蓋  
シ國民ノ之ヲ知ルヲ愈詳カナレハ政府ノ之ヲ  
用ルヲ愈正ニ歸シテ始テ一國人民ノ安全ヲ保  
ツ可キナリ右ノ次第ヲ以テ考フレハ世人或ハ  
物品稅ノ說ヲ主張シ物品稅ヲ收ルモ國民ニハ

其税ノ重キヲ覺ヘズト云フモノアレバ其說甚  
々不可ナリ人ノ之ヲ知ラサルトテ暗昧ノ間ニ  
其物ヲ取ルノ理アラシヤ氏ノ税ヲ收テ民之ヲ  
覺ヘサルハ決シテ其税ヲ取ル可ラス國民ヨ  
ク税額ノ多寡ヲ知リ公費ノ出納ヲ察シ上ニ不  
正ノ處置アラバ下ヨリ之ヲ發カシトテ之ヲ窺  
ヒ之ヲ探リ以テ始テ上下ノ和令ヲ保存スベキ  
ナリ

### 收税ノ主意ヲ論ス

前条ニ云ヘル如ク一國ノ人民ハ其政府ヨリ德

澤ヲ被ルノ深淺ニ随テ税ヲ納ムヘキノ理アリ  
譬ヘハ爰ニ二人アリ其一人ハ家産十萬ドルヲ  
ルヲ有シ今一人ハ千ドルヲ有ス之ヲ政府  
ノ法ニ由テ均シク此二人ヲ保護スルハ千ド  
ルヲルノ人ハ十萬ドルヲルノ人ヨリモ百分一  
ノ税ヲ拂テ可ナリ此論ヤ既ニ正シト雖モ未タ  
事情ノ詳ナルヲ盡スニ足ラス國民ノ家産税額  
税ヲ收ルニ富商大賈ハ此税ヲ拂テ憂色ナク  
自カラ其奢侈ヲ減スルニモ及バサレバ貧民ニ  
至テハ然ラス假令其家産ヨリ拂フ所ニ税額些

少ナリト雖モ或ハ此割合ヲ納ルカ爲メ食ノ缺  
乏ヲ致スコアリ然リト雖モ今此弊風ヲ救ンガ  
爲故サラニ富人ノ家産ヨリ重税ヲ取ル可キヤ  
否ヤ論ハ姑ク閣キ只國民ハ其政府ヨリ被ル  
所ノ德澤ノ深淺ニ從テ其拂フ所ノ税ニ多寡ア  
ルベキノ理ハ既ニ明白ナリ今物品税ノ割合ヲ  
平均シテ諸品一樣ニ税額ヲ定ルモ則チ國民  
貧富ノ別ナク一樣ニ税ヲ出スノ理ナレハ其法  
却テ公平ト云フベカラス故ニ物品税ヲ收ルニ  
ハ物ノ種類ニ從テ輕重ノ等差ヲ設ク人生ニ饒

ク可ラサルノ要品ハ無税ト定メ或ハ無税ナラ  
サルモ極メテ之ヲ輕クスヘシ之ニ反シテ奢侈  
ニ屬スル品物ハ故サラニ其税ヲ重クシ一國公  
費ノ太半ハ此税金ヲ以テ資トナス可キナリ  
今此論ヲ擴メテ其詳ヲ求ムルモ左ノ条々ヲ  
決スベキナリ

第一 國民私有ノ高ニ分限ヲ立テ其分限ヨリ  
少キモノハ税ヲ取ルコ勿ルヘシ貧民ノ用ニベ  
キ衣服夜具并ニ其飼フ所ノ牛馬豚豕ノ如キハ  
無税品ノ内ニ掲クベシ

第二 人生必用ノ品物ハ無税ナルベシ若シ止ムヲ得ズレテ税ヲ取ラハ極テ其割合ヲ輕スベシ此等ノ品物ヲ賣スノ多少ハ貧人ニテモ富人ニテモ同様ナレト富人ハ之ヲ買フニ只其産ノ一部ヲ散スルノミ之ニ反シテ貧者ハ其必用ノ衣食ヲ買ハンガ爲終歲所得ノ利ヲ殆ト用ヒ盡シテ尚足ラザル者アリ何レノ國ニテモ五穀薪炭粗布錦類ノ税ヲ收ルキハ其國ノ人民之カ爲ニ安樂ヲ失フ而已ナラス終ニハ生活ヲ支フル能ハザルノ甚シキニ至ルヲ聞コレアリ

第三 驕奢淫逸ニ属スルノ品物ハ最モ其税ヲ重クシテ可ナリ蓋シ其主意ハ取テ人ノ随意ヲ妨グントスルニハ非ザレト一身ノ奢侈ノ爲ニ財用ヲ浪費スルモノハ之ヲシテ政府ノ費用ヲ助ケシムルモ敢テ妨アルノ理ナケレバナリ其次ハ生活ヲ安樂ニシ蓄財ヲ求ムル所ノ品物ヨリシテ其税ヲ取ルベシ其故ハ人トシテ衣食住ヲ安樂ニスルモノハ其私財ノ一部ヲ分チ政府ノ公費ニ供スルモ之ヲ憂ルニ足ラズ又蓄財ノ方法アルモノハ政府ノ保護ヲ被ルノ代リトシ

テ所得ノ利ヲ以テ其一部ヲ分チ政府ノ用  
ト爲スモ自然其理アレハナリ故ニ毛種ノ類<sup>生活</sup>  
ヲ安樂ニスハ五穀薪炭<sup>生活ニ必要ナル物ナリ</sup>ヨリモ其稅  
ヲ重クスベシ農夫ノ荷車商人ノ貨船<sup>畜財ノ用ル物</sup>  
ナハ其稅ヲ取ルベシト雖<sup>氏</sup>都下士商ノ乘車ハ  
之ト同等ノ稅額ニ爲ス可ラス○前條既ニ云ヘ  
ル如ク一國ノ公費ハ一國人民ノ負任ナレ氏決  
シテ之ヲ厭フ可ラス凡ソ良民タルモノハ甘シ  
テ此重任ヲ負フミシ其故ハ此報トシテ得ル所  
ノモノ甚タ大ナレバナリ人若シ之ヲ疑ハシク

思ハ試ニ自ラ顧思セヨ今安全トシテ政府ノ下  
ニ立チ些少ノ稅ヲ拂ヒ以テ甚大ノ保護ヲ被ル  
ニ非ズヤ假ニ今此保護ヲ廢シ身自ラ其身ヲ守  
リ自ラ其私有ヲ保護セント欲シナバ幾多ノ金  
ヲ費シテ其用ニ足ルベキヤ人或ハ遊樂ノ爲ニ  
旅行スル者アリ美服盛饌ノ爲ニ金ヲ費ス者ア  
リ甚シキハ放蕩ヲ爲シ淫逸ニ耽ケリ惡事ヲ行  
フテ以テ家ヲ破ルモノアリ是等ノ浪費ヲ以テ  
其政府ニ納ル所ノ稅額ニ比スレハ固ヨリ其多  
寡輕重ヲ論スルニ足ラサルナリ故ニ一國ノ良

民ハ活眼ヲ開テ善ク公費ノ出納ヲ察シ決シテ  
其不正ニ任スノ理ナシト雖モ世間一般ノ裨益  
タルヘキ事アラハ決シテ鄙吝ノ心ヲ抱カズ勇  
ニテ財ヲ出シ同心協力以テ其事ヲ助成セザル  
可ラザルナリ

又爰ニ數句ヲ贅言シ以テ政府ニ蓄財スルノ弊  
風ヲ論スルコト下件ノ如シ抑モ政府ニ稅ヲ納メ  
其入其出ヨリ居多ニシテ餘剩ノ金ヲ貯ルハ  
必ス惡ム可キノ弊ヲ生スルモノナリ政府ニ金  
ヲ有スレハ國內金貨ノ權ヲ握リ其勢ニ乘シテ

遂ニ偏頗不正ヲ逞フスルニ至ルコト間多シ故ニ  
政府ヲシテ餘剩ノ金ヲ貯ヘシムルハ徒ニ有害  
無益ノ權威ヲ付與シ其暴戾ヲ恣ニスルノ資  
リト云フベシ若シ此金ヲ聚斂セズシテ國民ノ  
手ニ在ラシメナバ生利ノ資ト爲ル可キニ彼ニ  
取テ此ニ貯ヘ無益ノ用ニ供スルノミナフズ甚  
シキニ至テハ惡事ヲ行フノ資ト爲スコトアリ豈  
悲マザル可シヤ大凡ソ世界廣シト雖モ建國  
シト雖モ政府ニ餘剩ノ金ヲ貯ヘ以テ私欲貪婪  
ノ流弊ニ陷ラザルモノハ古今未ダ曾テ其例ヲ



見ザルナリ

一國ノ財ヲ費ス可キ公務ヲ論ス

國ノ財ヲ集メテ之ヲ費ス可キ公務ノ箇条ハ左ノ如シ政府ヲ維持保固スルガ爲ニ財ヲ費シ人民ヲ教化長育スルガ爲ニ財ヲ費シ宗旨ヲ護持保存スルカ爲ニ財ヲ費シ國家ノ管轄ニ財ヲ費シ貧民ノ救助ニ財ヲ費シ軍國ノ備用ニ財ヲ費ス等皆是ナリ今此次序ヲ以テ逐件之ヲ論セシテ左ノ如シ但シ其財ヲ費スノ旨ハ前論ニ於テ既ニ詳悉ナレハ此条ニ於テハ只其要ヲ掲明シ

以テ備考ニ供ス

第一 政府ヲ維持スルカ爲ニ財ヲ費ス事

此条ハ公費ノ内ニテ最モ緊要ナルモノナリ世ニ政府ナクハ曾テ人間ノ交際アル可ラズ人間ノ交際ナクハ曲ヲ蒙ルトモ之ヲ訴ルニ所ナク私有ヲ得ルトモ之ヲ保ツニ道ナカル可シ然リト雖モ政府ヲ建シトスルニハ吏負ナカル可ラス吏負ヲ用シトスルニハ之ニ給料ヲ與ヘザル可ラス若シ給料ヲ與ヘザレハ職ヲ奉スル者ナカル可シ故ニ政府ヲ維持セン爲メ費用ヲ論

スルハ其理甚タ公ニシテ且明ナリ  
甲 經濟家ノ要務ハ政府ノ或員ヲ用ルニ各其  
職務ヲ奉シ善ク其任ニ堪ヘ以テ事業ヲ成シ得  
可キ人物ヲ選ブニ在リ抑政府ノ職務ハ頗ル難  
事多キカ故ニ非常ノ才幹アルニ非サレハ其任  
ニ當ル可ラス乃チ博識多聞書ヲ讀ミ教ヲ被リ  
義ヲ守リ節ヲ知り確乎不拔世間第一流ノ名ア  
ル人物ニシテ始メテ事業ヲ成シ得ベシ然ルニ  
今若シ此要旨ヲ失ヒ誤テ下流ノ人物ヲ用ヰナ  
バ猶良工ノ成スベキ業ヲ以テ賤工ニ與ヘ遂ニ

其事ヲ敗ルカ如シ豈不經濟ノ甚シキモノニア  
ラスヤ

乙 前条ノ故ヲ以テ刑法官議政官為政官ノ如  
キハ其職務ニ堪ニベキ人物ヲ選ビ其才幹ニ應  
ジテ其給料ヲ與ヘザル可ラス譬ヘハ第三等ノ  
訟師ニ與フ可キ給料ヲ以テ刑法官ノ大長ニ與  
ヘ其才幹ヲ用ントスルハ實ニ無知無識ノ者蓋  
ト云フ可シ且又人ヲ用ルニ當リ其身自カラ  
私業ヲ營テ得ベキ金ヨリモ更ニ其給料ヲ少ナ  
クシ却テ其人ヲシテ天下ノ事務ヲ司クシメン

トスルハ豈鄙吝ノ處置ニアラズヤ  
或人云ク政府ノ吏員ヘ給料ノ多ク與ルハ世  
人皆爭テ仕官ヲ求メ金ヲ貪ルノ弊風ヲ生スヘ  
シト予答テ云ク吏員ノ給料ヲ減スルトモ決シ  
テ此弊風ヲ除クニ足ラス仕官ニ熱中スル者ノ  
多寡ハ依然タルベシ只給料ヲ多クスレハ學者  
士君子ヲシテ熱中セシメ給料ヲ少ナクスレハ  
皂隸小夫ヲシテ熱中セシムルノミ只君子ヲ用  
レハ世ノ益トナリ小夫ヲ用レハ世ノ害トナル  
ノ差アルノミ今假令大ニ給料ヲ減シ政府樞要

ノ職ニ仕スル者ヘ其給料ヲ與フルヲ僅ニ小夫  
ノ賃錢ニ等レキヲアラレ乎乃チ斯ノ如ク爲ス  
トモ此官職ヲ得ントシテ熱中スル者ハ尚依然  
舊ノ如ク多カルベシ只其仕官ニ熱中スルノ爭  
ハ乃チ皂隸小夫ノ間ニ行ハレテ學者士君子ハ  
必ス之ヲ爭フヲ欲セサルノミ  
前条給料ノ論ハ必ス行ハレテ妨ナキ便益ノモ  
ノナリ譬ヘハ其政府ノ職ニ任スルニ當リ本人  
ノ身分ニ爵位ヲ付與シ或之ヲ以テ學者士君  
子ノ榮譽ト爲スノ國風ナレハ仕官ノ給料ハ他

ノ職業ニ於ルヨリモ少クレテ可ナリ又在職ノ年限ナキ者ハ年限アル者ヨリモ給料ヲ少クシテ可ナリ故ニ一國人民ノ地位ヲ一様同等ニ定メ政府ノ職ヲ奉スル者ト雖モ之ニ爵位ヲ付與スルヲナク之ヲ尊敬スルヲ無キノ理ヲ主張シ其風ノ盛行スル國ニ在テハ官貢ノ給料必ズ多カラザルヲ得ズ且又在職ノ年限アレハ之ガ為其退職ノ後ニ營求スヘキ生計ノ道ヲモ失フガ故ニ其給料モ亦之ニ準シテ貴カラザルヲ得ズ此等ノ人其職ニ在ルニ當リテ善ク信實ヲ

盡シ公務ヲ奉スレハ其功ヲ賞スルカ為退職ノ後之ニ扶助金ヲ與ヘザルヲ得ズ

### 第二 人民ヲ教育スルノ為財ヲ費ス事

人民ノ教育ニ二様ノ別アリ一ヲ常教ト云ヒ一ヲ學教ト云フ常教トハ何ゾヤ人ノ此世ニ生レ通常ノ產ヲ營求スルカ為欠ク可ラサル所ノ聞見知識ヲ導クノ教ナリ語學書畫數學地理歷史學等ノ一班ヲ云フ此等ハ皆是平人ノ常ニ心得タルニキ學科ニテ必スシテ學者先ニシテ始メテ之ヲ知ルノ教此教ヲ設ケンニハ公ニ一國ニハ非サルナリ此教ヲ設ケンニハ公ニ一國ノ稅ヲ收メ其費用ニ充ツベシ蓋シ其故ハ國民

各學問ノ一班ヲ知レハ相互ニ其裨益ヲ被ル可  
ケレハナリ殊ニ衆庶會議ノ政治ニ在テハ人ヲ  
教育シテ其德澤ヲ被ルヲ最モ大ナリ

右ノ如ク常教ヲ設ルカ為稅ヲ收ルニ當リ其コ  
レヲ收ルノ法方ト之ヲ收テ又之ヲ費スノ法方  
トヲ論セサル可ラス教育ノ稅ヲ收ルハ他ノ稅  
ヲ收ルカ如ク之ヲ集メテ官庫ニ貯ヘ教師ニ給  
料ヲ與ルヲ尋常ノ吏人ニ給料ヲ與ルカ如クス  
可シ之ヲ一法トス又或ハ市井郷里ニ學校ヲ建  
テ其地ノ長莊屋名  
主ノ類ヲシテ其地ヨリ費用ノ金ヲ

集メシノ之ヲ其長ノ手ニ托シ乃チ之ヲシテ學  
校ヲ監督セシメ教師ヲ取扱ハシムベシ之ヲ第  
二法トス以上兩様ノ得失利否ヲ案スルニ第二  
法ヲ以テ上策トス此法ニ從ヘハ各處ノ人民皆  
自家ノ利否ヲ謀リ其學校ニ心ヲ用ルニ深切ニ  
シテ金ヲ費スルモ亦苟且ナラズ隨テ教師ノ選  
任スルニモ自カラ其才德ヲ用テ人選ヲ誤ルヲ  
勿ルベシ之ニ及シ一個ノ本政府ヨリ數多ノ教  
師ヲ選ミ國內ノ諸方ニ送ラントスレハ其人選  
ノキニ當リ或ハ失誤多ク或ハ誠實ノ意ヲ失フ

ヲアルヲ免レズ國民ハ國ヨリ其選舉ノ事ニ關  
ラズ其給料ノ多寡ヲモ知リ得ザレハ自然其教  
授ノ可否如何シヲ注思スルヲ無クシテ終ニハ  
生徒教育ノ本旨ヲ錯ルノ弊風ヲ生スベシ  
前条所論ノ第二法ニ從ントスルハ其處置甚  
タ簡易ナリ乃チ市井鄉里ノ大小ヲ計リ其人口  
ノ多寡ニ從テ一處ノ學校ヲ設クヘキモノハ必  
ス之ヲ建テシノ其費用ヲ供センガ爲ニハ政府  
ノ權ヲ以テ稅ヲ收メ其收メタル稅金ハ之ヲ集  
メテ其地ノ人民ニ托シ出納ノ任ヲ專ラニセシ

ムベシ蓋シ其人民ハ自己ノ膏血ヲ絞リ集メタ  
ル金ナレハ此金ヲ用ルモ工夫ヲ盡シ不經濟ノ  
處置ヲ爲サザルヲ必セリ○且又右ノ如ク學校  
ヲ盛ニスルハ教師モ亦隨テ其人負ヲ多クセ  
ザルヲ得ズ故ニ此教師タルベキ人物ヲ成育ス  
ルカ爲又一種ノ學校ヲ設クザルヲ得ズ斯ノ如  
クシテ全國ノ内ニ教化ノ大本ヲ定立スレハ其  
主意互ニ相支吾スルヲ無クシテ諸學ノ進歩亦  
隨テ一樣ナルヲ得ベシ  
第二ノ教育ヲ學教トス學教ヲ修メ天下ニ廣布

シ之ニ由テ衆庶ノ裨益ヲ成ストノハ固ヨリ  
論スルヲ待ズ試ニ見ヨ方今諸國ニ在テ發明  
夫ノ功績多ク人知益開ク德澤益大ナルハ皆學  
教ノ賜ニアラスヤ故ニ此學教ヲ盛ニセンカ爲  
天下ノ財ヲ費スハ其所爲實ニ公明正大ト云ヘ  
ク且有知有識ト云ヘキナリ

學問ノ道ヲ研究シ之ヲ修ルト學問ノ道ヲ公布  
シ之ヲ廣ムルトノ二件ハ同一ノ人ニシテ成ス  
ベキナリ且又其所用ノ器具モ兩様相同シキカ  
故ニ此二件ハ常ニ相符シテ一科ト爲セリ又學

教ヲ建ルニモ二条ノ要訣アリ第一既ニ所有セ  
ル知學ヲ世ニ弘ムルトナリ第二既ニ所有セル  
モノヘ新ニ知學ヲ增益スルトナリ此二条ハ兩  
様共ニ緊要ノモノニテ必ス之ヲ兼有セザル可  
ラス諸方ノ學校ヲ見ルニ其一ヲ忘レ能ク其二  
ヲ成セシハ未タ曾テ之アルモノヲ見ズ○右ノ  
論ハ姑ク閣キ今此ニハ政府ヨリ學教ノ爲ニ高  
科ノ學校ヲ建テ學ヲ修メ道ヲ廣メンヲ勉ムニ  
當リ其費ヲ少ナクシ其事ヲ善クスル所以ノ法  
ヲ示スニ

學校ヲ開シカ爲必用ナル器械書籍ヲ購ヒ其家  
屋ヲ建ルニハ非常ノ多費ナルガ故ニ平人ニ在  
テ能ク成シ得ベキコトニ非ス或ハ偶平人ニテ學  
校ヲ開ク者アルモ元金ヲ償フカ爲自然其生徒  
ノ學費ヲ貴クスルカ故ニ富人ニ非ザレハ入學  
シテ教ヲ受ル能ハズ故ニ政府ニテ學教ノ設ヲ  
爲スハ元ヨリ富人ノ爲ニ非ス只貧民ノ學ニ志  
シテ學資ニ乏シキ者ヲ惠ムノ主意ナレハ政府  
ノ職分トシテ學教ニ必用ノ具書籍器械ヲ備ヘ  
サル可ラス

右ノ如ク政府ニテ器械書籍家屋ヲ供シ此品物  
ヲ用ヒテ學教ヲ授ルニ當リ其教師タル者ハ此  
品物ヲ用ルガ爲借賃ヲ政府ヘ納ム可キヤ否ノ  
議論ヲ決スルハ甚タ容易ナリ唯其借賃ヲ拂ヘ  
ハ教授ノ給料ヲ貴クシ之ヲ拂ハサレハ給料ヲ  
賤クスルノミ  
教師ニ與ル給料ハ其人ノ才學ト器量トニ從ヒ  
多寡アルベシ學術教授ノ産業教授ヲ以テ錢ヲ  
業ヲ營ムニ異ナラスヲ進メ之ヲ鼓舞作興ニ必  
故ニ之ヲ産業ト云フ  
ス其人ヲシテ學力ノ深淺ト誠實ノ厚薄トニ因



テ生計ノ道ヲ得セシメントスルニハ給料ノ多寡ヲ以テ之ヲ制スルニ若クハ無シ按スルニ我亞米利加合衆國ニ於テ大學校ノ教師ヘ給料ヲ與ルニ其高ヲ一定シテ曾テ機宜ニ應スルノ處置ナキハ教育ノ爲大ニ不便ナルニ似タリ故ニ今一種ノ學ヲ盛ニセン爲其入用ノ元金ヲ備ヘナバ之ヲ用ルノ法ハ宜シク本論ノ旨ニ從ヒ人ノ才學ト器量トニ準シテ之ニ給料ヲ増減スベシ  
又貧生ヲ教育スルガ爲其元金ヲ備ヘナバ之ヲ

行フノ法ハ左ノ旨ニ基ツクベシ

第一 只貧書生ヲ惠ムノミニテ之カ爲學校一般ノ教授料ヲ賤クス可ラス譬ヘハ教授ノ給料貴クシテ某甲某ノ自力ヲ以テ其教授ヲ受ルヲ能ハザルキハ之ヲ扶助シテ教育ヲ授クベシ是レ天下ノ羨事ナリ然レモ貧者ハ只甲一人ニシテ乙丙丁ノ學生ハ皆至當ノ教授料ヲ納ムヘキモノナレハ貧生一人ノ爲他者ノ學費ヲ減スルノ理ナシ

第二 前論ニ云ヘル如ク教師ニ與ル給料ハ其

學力ノ深淺ト誠實ノ厚薄トニ因テ其多寡ナル  
ベシトノ旨ヲ失ス可ラス假令今爰ニ一ノ學校  
ヲ設ケ其學費ヲ廉ニシコレカ爲ニ生徒常ニ充  
満スルモ其教師ヲ處スルノ法宜シキヲ失ヒ教  
授ノ職掌ヲ勉ル者モ怠ル者モ其給料ヲ與ル  
同一ナルキハ此學校ハ帝ニ教ノ風ヲ助ケザル  
ノミナラズ及テ世ノ文學ヲ衰微セシムルニ至  
ル可シ

第三 學校ニ大中小ノ順序アラバ下等ノ學校  
ニ於テ謹慎勉強スル者ヲ舉ゲ其褒賞トシテ之

多ク上等ノ學校ニ遷スベシ此ノ如クスルキハ大  
ニ下學校ノ生徒ヲ勵マシ正シク其人物ノ才不  
才ニ準シテ學費ヲ給シ名實相支吾スルヲ無キ  
ヲ得ベシ

又爰ニ論ズベキノ一事アリ學教ヲ進メンガ爲  
ニ天下ノ衆人各自力ヲ用レハ其役テ生スル所  
ノ功驗ハ其力ヲ用ル所ノ方向ニ由テ異同アリ  
衆人若シ財ヲ愛シテ教育ノ冗費ヲ少クセシ  
ト欲スルハ其欲スル所ニ役テ之ヲ少ナクス  
ヘキ而已ニテ他ニ所得ハル無シ生徒ノ學費ヲ

納ルヲ極メテ欲ナケレハ教師ノ給料ヲ受ルモ  
亦極メテ少ナカルベシ故ニ其教授ノ品位モ亦  
極メテ賤シカラザルヲ得ズ今五兩ノ金ヲ以テ  
二十五兩ノ布帛ヲ買フノ術アリトテ自サテ誇  
張スルモノアラハ人誰カ之ヲ愚ト云ハシラン  
若シ此ノ如キ愚人アラハ試ニ其所欲ニ從テ其  
物ヲ買ハシムベシ遂ニハ自己ニ之ヲ發明セシ  
抑モ五兩ノ金ヲ投シテ買ヒシ物ハ果シテ五兩  
ノ價ヨリ貴カラザレハ人民教育ノ價ニ於テモ  
之ニ異ナルナシ教師ノ給料或ハ一年五百ドル

風規ヲ興張シ其教ヲ蒙ラント欲スルモノ日増  
月進スルカ故ニ只教育ノ品位ヲ貴クスルノミ  
ナラズ其分量ヲモ并セテ大ニ亦増加スベシ故  
ニ云ク人民教育ノ法ハ其價ノ廉ナラシヨリ寧  
ロ其品ノ美ナラシヲ貴トス

### 第三 宗旨ヲ護持スルガ爲財ヲ費ス事

宗旨ヲ護持スルガ爲ノ冗費ハ會社結盟ノ中間  
即チ裁カ云フニテ相辨ス可キモノナレバ必ス  
時ノ講中ナリニ立ツ所ノ世俗衆人ヲシテ盡ク其責  
ニ任セシムルヲ要スルノ理ナシ蓋シ宗旨ノ教

ハ古來政府ノ行ハニ關ズレテ常ニ繁榮セシ  
モノナレハ必スシモ政府ノ扶持ヲ仰カズレテ  
可ナリ或人云フ宗旨ニ歸依スレハ其人ノ德誼  
ヲ修メ知識ヲ開キ世ノ風俗ヲ美ニシテ人各其  
德澤ヲ被ルガ故ニ此法ヲ保護スルガ爲ニハ亦  
各人ヲシテ財ヲ出サシメザル可ラスト予答テ  
云ク然ラズ宗旨ノ設アルニ由テ人各其德澤ヲ  
被ルトノ說ハ誠ニ是ナリト雖氏本來宗旨ヲ立  
ルノ意ハ人々ヲシテ德澤ヲ蒙ラシムルト欲ス  
ルニハ非ス只人々相共ニ宗旨ノ教ヲ被リ以テ

自カヲ爲ニスルノミニテ人ノ爲ニスルニハ非  
ス或ハ之ニ由テ自然世ノ風俗ヲ新ニシ其德澤  
ノ他人ニ布キ及スコアルモ是レ其然ルヲ計ラ  
スシテ然ルモノニシテ其本人ニ於テハ毫モ之  
ニ關係スル所アラザレハ今偶然其德澤ヲ被リ  
シトテ強テ之カ爲財ヲ出サシムルノ理ハアラ  
ズ譬ヘバ鄰人其地面ニ家ヲ立テ偶之ニ由テ我  
家ノ溝墻トナリ我ニ益スルコアルト雖氏本來  
鄰人ノ家ヲ立テシ旨ハ自己ノ便利ヲ計リシモ  
ノナレハ假令我家ニ在テ其德澤ヲ被ルトモ我

ヨリ錢ヲ出シテ其造營ノ費ヲ償フノ理ナシ然  
ラハ宗旨護持ノ論モ鄰人ノ家ニ異ナルヲナカ  
ル可シ

宗旨ヲ護持スルガ爲公然國民ノ稅ヲ收ムヘシ  
トノ說ヲ主張スルモノアリ云ク政府ヲ維持ス  
ルニハ宗旨ノ教ナカル可ラス宗旨ノ教ヲ護ス  
ルニハ權力ヲ以テ其費用ノ金ヲ集メサル可ラ  
スト此論却テ是ナリト云フベカラズ宗旨ヲ存  
スレハ政府ヲ立ルノ一大助タルベシト雖此之  
ガ爲強テ國人ノ財ヲ收ム可シトノ說ハ理ニ戾

ル一太ナリ予輩ノ論ニ處レハ何等ノ事情アル  
モ決シテ宗旨ノ爲ニ稅ヲ收ム可ラス國民其政  
府ニ請フテ會社ヲ結ビ宗旨法教ニ從事スルモ  
他ノ商人等ノ組合ヲ立テ商業ヲ營スルニ異ナ  
ラズ政府ヨリ其會社ヲ准スノ意モ敢テ宗旨ヲ  
重シシテ故サラニ之ヲ命スルニ非ス只宗旨ノ  
信心ハ一身ノ幸福ヲ求ムルノミニシテ世ノ害  
ヲ爲サルカ故ニ之ヲ准スナリ

#### 第四 國內ノ營繕ニ財ヲ費ス事

海岸ヲ測量シ諸港ヲ營繕スルカ如キ外國貿易

ノ爲ニ必用ナル事ハ之ヲ一國ノ公費ト爲シテ  
官府ノ手ニ任セザル可ラズ又街道ヲ開キ通船  
ノ爲ニ川ヲ堀リ蒸氣車ノ爲ニ錦道ヲ敷クガ如  
キ内地ノ營繕ハ之ヲ平人ニ任シテ私ニ爲サシ  
ムルヲ善トス此等ノ工役ヲ企テ元金ヲ費シテ  
利益ヲ得ベキ目的アレハ衆人皆悦テ之ヲ爲ス  
ベキナレトモ若シ所得ヲ以テ所失ヲ償フニ足ラ  
ザルノ恐アラハ政府ニテモ平人ニテモ決シテ  
之ヲ企ルヲ勿ルベシ只内地ノ營繕ニ付キ其工  
業ノ大ナルガ爲ニ平人ノ自力ニテ元金ヲ給ス

ル能ハサル乎或ハ其工業ニ關ル所ノ權力頗ル  
重大ニ涉リ之ヲ平人ノ會社ニ委任シ難キヲア  
ルキハ政府ヨリ手ヲ下シ之ヲ企ツベシ但シ政  
府ノ公費ヲ以テ之ヲ企ルトモ其出納ヲ制スル  
ノ法ハ平人ノ私費ニ於ケルモノト曾テ相異ナ  
ルヲ無シ

#### 第五 貧人救助ノ爲財ヲ費ス事

鰥寡孤獨廢疾ノ者ヲ救助スルハ宗旨法教ノ職  
分ナレハ宜シク自意ノ處置ニ任スベシ故ニ風  
俗淳厚ニシテ宗旨ヲ重シスル國ニテハ貧民ヲ

救助スルニ人々ノ自意ニ任シ私有ヲ分テ衣食  
ヲ與ルモノアリ或ハ衆人相共ニ謀リ救窮ノ會  
社ヲ結ブモノアリ

前条ノ論ハ既ニ理ノ當然ナリト雖モ或ハ事ノ  
情ニ由リ平人ノ自カヲ以テ速ニ救助ノ處置ヲ  
施ス可ラザルヲアリ或ハ之ヲ施ス可キモ費用  
大ニシテ其任ニ堪ル能ハザルヲアルガ故ニ老  
幼病者ノ活計ナキ者ヘハ一國ノ公費ヲ以テ衣  
食ヲ給スルモ理ニ於テ妨アルヲ無シ  
右ノ如ク他ノ扶助ヲ仰ク者ト雖モ悉皆廢人ナ

ルニ非ス太半ハ之ヲ用テ力役ニ服セルモノナ  
リ或ハ亦技藝ニ達シタル者モ少ナク之  
抑モ其本人ノ爲ニ謀ルニ躬行ヲ懶惰ニトスヨ  
リ寧ロ至當ノ力役ヲ勤メナハ反テ心ニ慊キヲ  
覺フ可シ故ニ貧民ヘ職業ヲ授ケテ之ヲ勤メシ  
ムルハ仁愛ノ主意ニシテ且亦經濟ノ要訣ナリ  
貧民ノ力ヲ役シ其技能ヲ用テ巧ニ之ヲ處置ス  
レハ其所得ノ利ヲ以テ大抵救助ノ費用ヲ償フ  
ニ足ルベシ故ニ救窮ノ法ヲ設ケントスルニハ  
十分ニ元金ヲ備ヘテ力役ノ場所ヲ設ケ扶助ヲ

願フ者アレハ且之ヲ使役シ且之ニ與フルニ衣  
食ヲ以テス乃チ是ヲ策ノ得タルモノト云フ合  
衆國東北ノ諸州ニ於テハ一邑又ハ一郡ノ公費  
ヲ以テ田地ヲ買ヒ貧民扶助ノ資ニ備ヘシモノ  
アリ實驗ニ據ルニ此法ヲ以テ貧民ヲ扶助スレ  
ハ初メ田地ヲ買フキノ元金ヲ費スノミニテ其  
後ハ法ヲ正シクシテ措置ヲ施シ貧人ヲ役シテ  
其地ヲ耕サシメ其所得ノ利ヲ以テ諸雜費ヲ償  
ヒ得ベシ或ハ畜之ヲ償フノミナラズ時トシテ  
ハ出納ヲ平均シテ餘アリト云フ都テ此類ノ法

ヲ推シテ之ヲ用レバ貧民救助ノ費用ハ甚々少  
ナクシテ實ニ力役スル能ハサル者ヘモ厚ク扶  
助ヲ加フルヲ得ベシ

#### 第六 軍國ノ備ニ財ヲ費ス事

多ク錢ヲ費ヤサズシテ國ヲ保スルノ法ハ正理  
ヲ守リ事ヲ處スルヲ寛大ニアルヲ上策トス然  
レモ若シ止ヲ得ズシテ戦争ニ從事スルハ經  
濟ノ要務ハ乃チ防禦ノ策略ヲ遠大ニシ之ヲ學  
識ニ基本ニ事ヲシテ遺漏ナカラシムルニ在リ  
故ニ邊地海岸ヲ測量シテ地理ヲ詳ニシ敵兵ノ



侵ス可キ地ニハ盛ニ城砦ヲ築テ防守ヲ嚴ニシ  
食ヲ足レ兵ヲ足レ缺乏ノ患ナカラシムベシ又  
平生ヨリシテ軍旅ノ學校ヲ設ケ國ノ公費ヲ以  
テ之ヲ扶持シ此學校ニテ教育ヲ蒙リ能ク其業  
ヲ遂ケタルモノハ平日公費ヲ以テ衣食ヲ給  
シ一旦事アルニ當テ軍役ヲ命スルノ備トナス  
可レ都テ是等ノ措置區畫ハコレヲ施スニ先ツ  
其利害損益ヲ察ス可シ實ニ其主意ヲ達シテ全  
ク益アルヲ見ハ費用ノ大小ハ固ヨリ問フコトヲ  
領<sup>テ</sup>フ可ラズ乃チ其金ヲ費スノ法方ハ本來經濟

學ノ所係ニ非ザレバ宜シク兵學教師ノ說ニ從  
テ之ヲ採用ス可シ但シ經濟學ノ要ハ財ヲ惜吝  
セズシテ第一流ノ人物ヲ選用シ防禦ノ策略ヲ  
設ケテ之ヲ實地ニ施サシメ其所得ノ實效ト所  
失ト冗費ト輕重互シク相稱ハシコトヲ欲フルノ  
ミ